

前 奏 黙想	讃美歌 191	いともとうとき
讃美歌 25	役員任職式	よをもる月に
祈 禱	献 金	
信仰告白 使徒信条 566	讃 詠 547	いまささぐるそなえものを
聖 書 イザヤ書 31:6~7	黙 禱	
使徒言行録 1:21~26	主の祈り 564	
讃美歌 171	讃 詠 546	なおしばしの 聖なるかな
説 教 『ユダ、背信という働き』	祝 禱	
祈 禱	後 奏	

復活のイエスは使徒に「エルサレムを離れず、前にわたしから聞いた、父の約束されたものを待ちなさい(1:4)」と命じて天に昇られた(1:9)。「約束されたもの」とは「聖霊による洗礼(1:5)」。使徒とその十倍もの信徒(1:15)の上に間もなく聖霊が降る。教会にとっては来週迎える聖霊降臨日の原点。

「約束されたものを待っている」と命じられ、使徒らはどう待っていたのか。天に昇るイエスを呆然と見送ったが(1:10)、「ああっ、天に行っちゃまったよ」と気落ちし、沈んでいたわけではない。弟子や女たちやイエスの身内など、さまざまな者が「心を合わせて熱心に祈り(1:14)」、百人を超える信徒が一つになって待っていた(1:15)。「聖霊が降って力を受ける(1:8)」前の段階だが、真剣に、ダイナミックに、祈りを一つにしていた。忘我になって祈っていただけではない。教会としての欠けを補うために、実務的にも丁寧に準備しながら(1:21~26)、「父の約束されたもの」すなわち聖霊を待っていた。

新たな使徒を一人選ぶ理由は「ユダが自分の行くべき所に行くために離れてしまった。使徒としてのこの任務を継がせるため(1:25)」だ。その前にもペトロが、ユダの顛末を克明に語っている(1:18)。ユダに関することを、なぜこれほど念入りに記しているのか。同じ弟子である自分たちにも、共通する闇があるからだ。「ユダはわたしたちの仲間の一人であり、同じ任務を割り当てられていた(1:17)」。そしてイエスの前にあってさえも、軽率さ、弱さ、底意、競争意識を抱えていた(マルコ10:35~37)。

リーダー格のペトロも、イエスのことを「三度知らない」と否んでいる(ルカ22:57~60)。また最後の晩餐の折イエスが「あなたがたの一人がわたしを裏切る(マタイ26:21)」と言うと、弟子たちは「〔主よ、まさかわたしのことでは〕と代わる代わる言い始めた(26:22)」。このようにユダ的な心当たりは使徒全員にあった。つまり「ユダの罪は私の罪」に他ならない。人間であることの、自分ではどうしようもない根深い罪が、祈りによって自覚された。だから弟子たちの祈りは、命がけだった。「すべての人の心をご存じである主よ、この二人の内のどちらをお選びになったかを、お示してください(使徒 1:24)」と真剣に祈り、そして引いた「くじ」によって、マティアが新しい使徒として選ばれた(1:26)。

今年の八ヶ岳教会総会では、役員選出の仕方を整え、選挙して新たに3名の役員を選んだ。使徒言行録では、最後の一人に絞る時こそ聖霊に頼んだ「くじ」だったが、そこに至るまでは私たちと違わない。「そこで人々は、バルサバと呼ばれ、ユストというヨセフと、マティアの二人を立てた(1:23)」。使徒が後任を任命するのではなく、当時としては驚くほど「民主的」な手続きで新たな使徒を選んだ。

使徒に選ばれなかった「バルサバと呼ばれたヨセフ」は、キプロス島生まれの「バルナバと呼ばれるヨセフ」のこと(4:36)。このバルナバの強い推挙によって、あの苛烈な迫害者パウロが仲間として迎えられた(9:26~27)。聖霊が吹き抜ける教会では、キリストの働きを、誰がどう担うか分からない。

人間には何かしら「欠け」がある。そのいかなる欠けを上回って、十字架の犠牲がある。私たちのいかなる欠けも、いかなる悪も、いかなる罪も、十字架のキリストに負われ、赦されている。ユダは反省したがそれを見届けなかった。そんな悲しいユダを指標にし、祈りによって自分を明け渡したい。

ユダの背きは地上にある私たちの課題 悲しいことだが ユダの破滅が同類たちの指標となった  
ユダの背き 神の御心ではないが 背信も無駄にはならない やがてすべてを御手が整えていく

礼拝後、齋藤百合子さんのお話し(タイ少数民族の人権活動)。昼食はタイカレー、どなたでも遠慮なくお召し上がり下さい。5/18(土)1:30~3:30 ｽﾃｲｼﾞｮﾝ・ｶﾌﾞ。5/19 聖霊降臨日、聖餐式があります。

礼拝堂・集会所の住所：408-0012 山梨県北杜市高根町箕輪 2265-3

連絡・問い合わせは牧師へ：408-0205 北杜市明野町浅尾新田 1324 TEL 0551-25-4008

eメールは komechan.olive@gmail.com HPは「日本基督教団八ヶ岳教会」で検索して下さい。